

【模範解答】

問 1

教養は教育と異なり、人間の自由な精神によって主体的に学ばれ身についたものを指す。教養は、人々が幸運にあるときには人の精神を秩序付け飾りとなるが、幸運に恵まれるだけがよい人生ではなく、選択によって不運な状況に陥ったときには困難を克服する命綱となって賢い選択を実現させる。教養の本質は前者でなく、後者のような最善の選択を支える「人間の根」としての教養にあり、自分自身の中に形成された生きるための底力となる。（200字）

★以下に相当する趣旨の記述があるかチェック

- ①教養と教育が対立関係にあり、教養が大切であることがうかがえ、教養の説明がなされている。
- ②幸運（飾り）と不幸（命綱）が対立関係にあって、特に後者が大切である旨が記載されている。
- ③幸運にあるときには人の精神を秩序付け飾りとなる。（幸運の説明）
- ④幸運に恵まれるだけがよい人生ではない。（筆者の常識に反する主張≡イイタイコト？）
- ⑤教養の本質は最善の選択を支える「人間の根」としての教養にある。

問 2

本文では、直面するさまざまな困難を打ち克つ力として教養が重要視されているが、同様のことが医療現場でも言えると感じた。

2019 年、中国の武漢を発端として感染拡大した新型コロナウイルスは、その未知な実態から全世界を不安と恐怖に陥れた。しかし、生命科学の教養を血肉と化していれば、「新型であっても、ウイルスには変わらない」と冷静に判断し、手洗い・うがい・3密予防といった適切な対応をとることができた。

また、医療現場には様々な宗教観・価値観をもった患者さんが来院し、ときに未曾有の判断を迫られることがある。その際も、「医療の目的に立ち返り、救命と健康の回復・維持に努めるべき」とか「自己決定権も尊重すべき」という生命倫理的教養が備わっていれば、適切な対応をとることはできるだろう。

このように、未曾有の困難に直面することの多い医師にとって、「人間の根」となるような教養を身につけておくことは肝要である。

（400字）

